

『対話的活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできる力の育成』
～少人数における効果的な対話的活動のあり方 算数科を通して～

利尻町複式教育研究部会（利尻町立仙法志小学校）

1. 研究主題について

主題設定について

本校の研究は児童の資質・能力を育てることを目的とした実践研究であり、児童の現状に即するため単年度の研究を行っている。今年度は、小規模校である本校の「少人数なため対話的活動が苦手」という課題克服のため、本研究主題を設定した。

研究内容

- （1）対話的活動を通して（少人数における効果的な対話的活動）
- ①自ら思考し、自分の考えを分かりやすく表現する力の向上
- ・考えたい、やってみたい、できそうだという学習課題の設定
 - ・考えた過程が分かるノートづくり
 - ・図や数直線、グラフなどを用いて自分の考えを書く活動
- ②他の考えと比較、他者との交流、自分の考えを再構築する力の向上
- ・教科書の登場人物やクラスの友達との考えと自分の考えとの比較
 - ・クラスの友達、対教師、ICT機器等を用いて他者の意見との交流→子ども対教師でまとめ上げ
 - ・振り返りにおいて自分の考えの変化や新しい発見の記入と時間設定の工夫
- （2）自分の考えを深めたり、広げたりできる子の育成
- ①到達点にそって自己評価できる子
- ・到達点を明確にした課題設定（今日何ができたか、今日何ができなかったかが明確）
 - ・振り返りにおいて学習内容の定着を見とる。
- ②学習したことを次時に活用したり、家庭学習などでも積極的にその学習や応用問題に取り組んだりできる子
- ・前時の振り返りの中で子供たち自らが本時の課題に気づかせる工夫
 - ・家庭学習の内容の工夫

2. オンライン学習などICT活用状況

本校は平成29年度に「ICT活用教育促進事業」に参加し、当時より一人一台端末の体制が整えられていた。また、学習への活用も進んでおり、ドリル学習はもちろん、写真や動画の撮影や調べ学習、発表活動等に日常的にICTを活用してきた。

新型コロナウイルスや吹雪による臨時休業時及び

感染予防等によって登校できない児童には端末を活用したりリモート授業を行い、子ども達の学びを保障することができた。

昨年度より算数科においてデジタル教科書の活用を試みるとともに、今年度は町内の小学校との合同リモート授業を行い、教育的効果を高めている。今後さらに1人1台端末を生かし、ICTの活用を進める予定である。

3. 市町村教育研究大会の様子

9月14日に「利尻島教育研究大会」が利尻小・鬼脇中を会場に開催され、両町の教職員が集い、学びを深めることができた。R5年度は管内教育研究大会が利尻島を会場に行われる予定である。

4. 今後の方向性

本校の研究の様子

本校では、子ども達の資質・能力の育成を目指し、標題の主題をもとに校内研究を進めている。今年度も、7月5日と11月7日の2回、校内授業研を行い、主体的、対話的な深い学びのある授業づくりについて意見交換をし、本校の研究を深めることができた。（写真：11月7日 指導主事訪問）



令和5年度に向けて

現在は、今年度の研究を総括するとともに、新年度の教育課程編成を進めているところである。今後、令和5年度の教育課程編成をもとに、本校児童の資質・能力を育てることを目指した学校研究となるよう研究計画づくりを進めていく。また、利尻富士町の複式部会や町内小中学校とのさらなる連携を進めていく。